



家庭でのお手伝いは、お子さんに「社会のために働く意識」を育てます！

7月に入り、夏休みが近づいてきましたが、お子さんは普段家庭でのお手伝いできていますか。中学生は部活動や習い事など、毎日忙しく過ごしているお子さんが多く、「家にいる時ぐらいいは、ゆっくりと休ませたい」と、余計な負担をかけないように気遣っているご家庭も多いのではないのでしょうか。



家庭は、お子さんにとって**安心安全な居場所**であり、基本的な信頼感や思いやり、自立心など、**人との関係をつくるための基礎である「生きる力」**が育まれる大切な場所です。日々疲れたお子さんに休息をあたえることはもちろん大切ですが、「生きる力」を育むためには、家庭でのお手伝いが重要だと言われています。

お手伝いを任せれば、お子さんは「自分の仕事」として責任をもつようになり、自主性が身につきます。さらに、家族のコミュニケーションが増え、自分が家族の一員として「**人のために役に立っているという感情（自己有用感）**」を高めることができます。この自己有用感は、将来、**社会のために働く意識につながる**大事な感情です。ぜひ、お子さんと話し合いながら、可能な範囲でお手伝いに取り組めるようにしていきましょう。どのようなお手伝いであっても、**お子さん自身が最終決定できる**ようにすることが大切です。たくさんほめ、そして認めてあげることで、**自己有用感を高め、社会のために働く意識を育てていきましょう。**

お手伝いがもたらす

子どもの成長を支える役割



【自己肯定感・自己有用感を育む】

お子さんはお手伝いを通して、親からほめられ、認めもらえることで自分に自信がつき（**自己肯定感**）、さらに人の役に立っているという感情（**自己有用感**）を育むことができます。

【親子のコミュニケーションになる】

「上手ね」「ありがとう」など、ほめたり、感謝したりすることは、親子のコミュニケーションになり、**信頼関係を築く**ことができます。

【責任感がつく】

お手伝いの役割分担をすることで、「自分はこれをやるんだ」と、**責任をもって取り組む**ようになり、自主性が育つ。

